

専門・認定看護師会ニュースレター

専門・認定看護師会では、専門・認定看護師の活動報告や、各領域の専門知識をワンポイントアドバイスでお知らせするため、ニュースレターを毎月発行しています。

子どもの誤飲『ボタン電池の危険性』

ボタン電池は、誤飲時に食道にとどまり、放電の影響によって短時間（僅か1時間）でも潰瘍ができて穴が開いてしまうなどの重篤な症状を生じることがあり、場合によっては死に至るなど大変危険です。ボタン電池は玩具だけでなく、時計・タイマー・LEDライトなど子どもが簡単に手にできる様々な日用品に使われていて、こうした製品で子どもが遊んでいたことによる事故が多数発生しています。

【事例】

引き出しの中に収納されているはずのLEDライト付き耳かきが放り出されており、子どもがコイン型のリチウム電池を誤飲したことが分かった。病院にて9時間かけて取り出したが、放電の影響で気管と食道に穴が開き2カ月入院した。



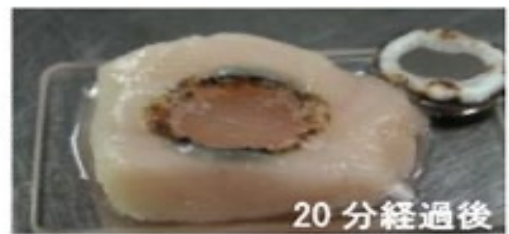
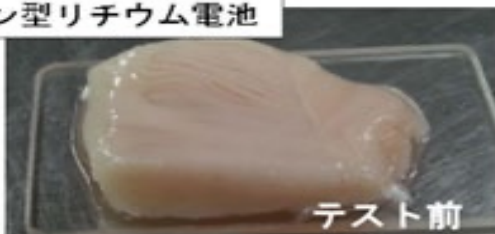
ボタン電池の危険性

電池を飲み込んだ際に消化管に接触した電池から電流が流れると、電気分解により電池の外側にアルカリ性の液体が作られ、短時間で消化管の壁に損傷が起こります。そのため早く取り出さないと消化管に潰瘍ができたり穴が開くなどのおそれがあります。特にコイン形のリチウム電池は平たく幅が広く食道等に停滞しやすいだけでなく、電池を使い切るまで他の電池より高い電圧をそのまま保持する特性があるため誤飲した時の危険性はより高くなります。また胃内では、胃液で電池の金属皮膜の腐食が起こります。

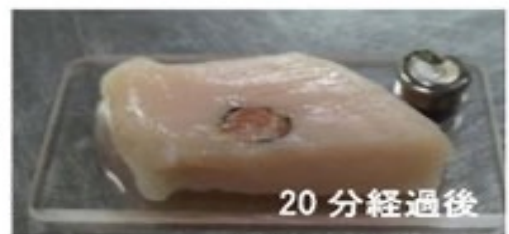
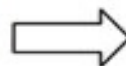
電池の中身（電解液）自体にアルカリ性液を使っているアルカリマンガン電池などではアルカリ性の液体が流出して消化管の壁を損傷するおそれも指摘されています。

鶏肉を使用した化学やけどの再現試験

コイン型リチウム電池



アルカリボタン電池



提供：国民生活センター

ボタン電池の誤飲を防ぐためにできること

- (1) どの製品にボタン電池が使用されているかチェックし、電池蓋が外れやすくなっていないか確認しましょう
- (2) 御家庭にある未使用又は使用済みのボタン電池は絶対に子どもの手の届かない場所に保管しましょう
- (3) 電池交換は、子どもの目に触れないところで行いましょう